

6月25日正午必着

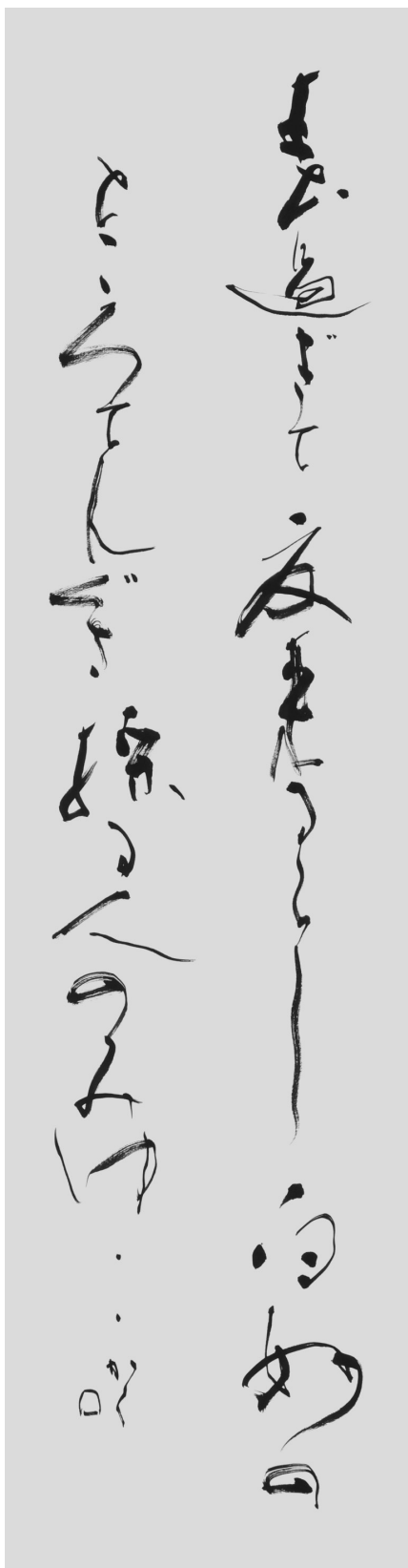
明石春浦先生書



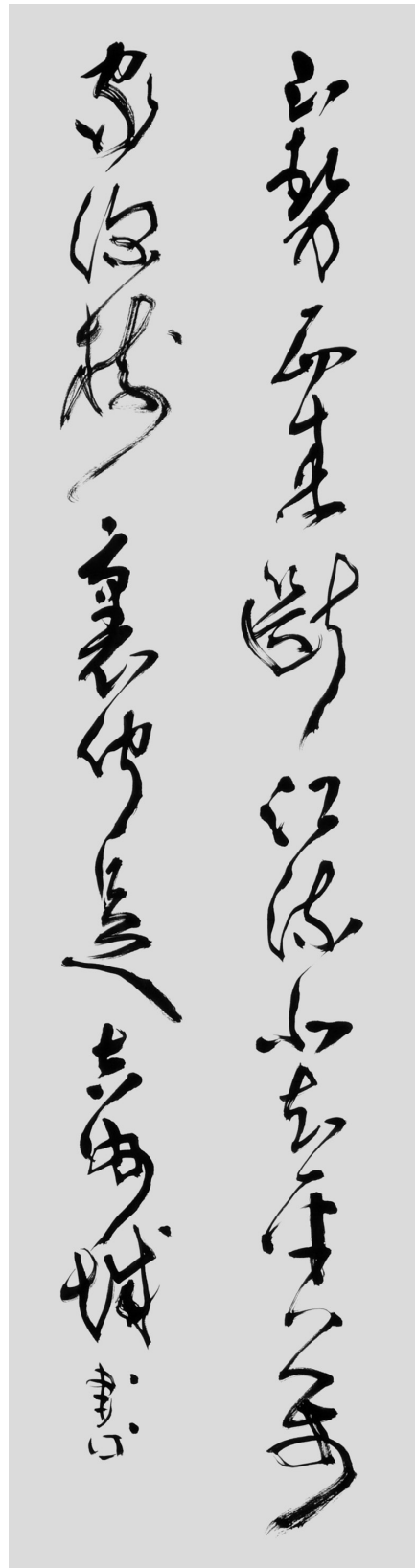
やまにひそみによる
潜山隠レ凡（盧諶）

劉琨に贈りし詩の句。古人はその精神を養う爲めに山にひそみ、凡により仰いで丹崖にかわかし、俯して緑水にくちすすと。

明石幸子書



春過ぎて 夏来るらし 白妙の ところてんぐさ 探る人のみゆ（北原白秋）



山勢西來斷
萬家深樹裏

江流北去平
聞是吉州城

(李東陽)

高い山が西から続いて、とぎれた所に江が北へ静かに流れている。
樹の茂ったところに家並が見える。そこは吉州城だということである。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

雲歸山水歸海 (禪林)

雲は山に帰し水は海に帰す

物皆根元に帰一する。

倦寝數殘更孤燈暗又明
竹梢餘雨重時復拂檐驚

(元稹)

寝に倦みて残更を数う。孤燈暗又た明なり。
竹梢余雨重く、時に復たの檐を払うに驚く。

孤燈の下、半宵眠りよりさめて雨あがりの竹の
音を聴いたのである。

村行 (姚揆)

村行 姚揆

天淡雨初晴 游人恨不勝
亂山啼蜀魄 孤棹宿巴陵
影暗村橋柳 光寒水寺燈
罷吟思故國 窓外有漁簪

天淡くして 雨初めて晴る 遊人 恨み勝えず
亂山 蜀 魄啼き 孤棹 巴陵に宿す
影は暗し 村橋の柳 光は寒し 水寺の灯
吟を罷めて 故国を思う 窓外 漁簪あり

鵜飼舟 瀬々さしのぼる 白浪に映りてくだる 篝火のかげ (藤原 爲世)

半紙部規定課題A

6月25日正午必着

人山
去曉
旅

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

6月25日正午必着

行書

山曉旅
人去

隸書

山曉旅
人去

明石春浦先生書

草書

山曉旅
人去

行草書

山曉旅
人去

山中に夜は明け初め、旅人は去って行く。空は高く、ものがなしい秋のけはい
地上の川に映じていた天の川はすでに消え去って、かぐわしい草はつめたい露の中に衰えてゆく
いまここに別れて、またも千里のかなたに赴くのだが、若さというものはいつまでも保てるものではない
君の住む剡溪への道がはつきり心に浮ぶ。いささか将来の約束をお届けしましょう。

早行寄「朱放」

戴叔倫

山曉旅人去

天高秋氣悲

明河川上沒

芳草露中衰

此別又千里

少年能幾時

心知剡溪路

聊且寄前期

早行 朱放に寄す

戴叔倫

山曉けて 旅人去り

天高くして 秋氣悲し

明河川上に沒し

芳草露中に衰う

此の別れ 又た千里

少年 能く幾時ぞ

心を知る 剡溪の路

聊且 前期を寄す

(出典)

朝日新聞社刊

「三体詩」下より

6月25日正午必着

山南李愿既歸盤谷文之聞其言而壯之與之酒而爲之歌曰盤之中維子之宮盤之上維子之稼盤之泉可濯可湘盤之阻誰爭子所窈而深廓其有容適而曲如往如復嗟盤之樂兮樂且無央虎豹迹兮蛟螭遁藏鬼神守護子以禁不祥飲且食子壽而康膏吾車兮秣吾馬從子於盤兮終吾生以徜徉八大山人

山南李愿。既歸盤谷。文公聞其言而壯之。與之酒而爲之歌曰。盤之中。維子之宮。盤之上。維子之稼。盤之泉。可濯可湘。盤之阻。誰爭子所。窈而深。廓其有容。適而曲。如往如復。嗟盤之樂兮。樂且無央。虎豹遠跡兮。蛟螭遁藏。鬼神守護兮。何禁不祥。飲且食兮。壽而康。膏吾車兮。秣吾馬。從子於盤兮。終吾生以徜徉。八大山人。

西 墨濤先生臨書

嗟盤之樂兮

嗟盤之樂兮。

明末清初 八大山人・盤谷歌

八大山人（明の天啓五年、一六二五？～清の康熙四十四年、一七〇五？）は、明代末期から清代初期の書家、画家、詩人で、名は朱耷、字は雪個。他に何園・人屋・書年・個山驢などと号した。明の王族の出身で、官吏を目指したが、明の滅亡により仏門に入り、修行に励んだ。後に多くの弟子を得たが、警戒されて軟禁状態にされた。軟禁状態を逃れた後に野に下り一庶民となり、数少ない友人と酒を飲み、書を書き、絵を描く生活を送った。書画に高い評価を得たが、それで富を蓄えるようなことはせずに貧窮の生涯を送ったようである。

八大山人の号は、四文字を二文字ずつ潰し気味に書き、笑之（これをわらい）哭之（これをこくす）と読ませて清朝の世の厭世感を表したという説がある。

八大山人の書は泰然自若、あるいは天真爛漫ともいうべきか、実におおらかな様相を呈しているといわれる。穂先のちぎれたような硬い毛の筆を用いたのか、点画にあまり太細の変化がなく、決して技巧に走ることなく筆に任せて淡々と書き進めているようである。この個性的な一種独特な雰囲気味わいたい。

（春濤）

《倣書参考》

※この釈文での臨書部門の出品は出来ません。

窈而深。廓其有容。
繚而曲。如往如復。

窈而深。廓其有容。繚而曲。如往如復。

夏雨染成千樹綠、暮風散作一江煙
風散作一江煙

夏雨染成千樹綠、暮風散作一江煙
(錢惟善)

夏の雨は樹々の緑をよみがえらせ、夕暮の
雨は川一面にもやを敷く。

6月25日正午必着

教育部毛筆

痛快

つう
痛

かい
快

中学一年

雨宮春聲先生書

感謝

かん
感

しゃ
謝

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

藤井良泰先生書

茶屋

ちや 屋

小学六年

榎戸春龍先生書

王室

おう 室

小学五年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

6月25日正午必着



こ
小

さめ
雨

小学三年

藤田幸春先生書



こう
公

きょう
共

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

て ん 小学一年・幼年



森戸春濤書

^だ出 す 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

6月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

小川の清い流れに
手をひたしてみる

小学五年

文章の段落ごとに要
点をまとめましょう

小学六年

有徳な人は自己の欠
点を聞くことを喜ぶ

中学

美しい花を見ていると心
かなやかになります

一般(級位)

窓近き竹の葉すさぶ風の音にいとどみじかきうたたねの夢
いふやうにうたねの音に

一般(段位)

窓近き竹の葉すさぶ風の音にいとどみじかきうたたねの夢(式子内親王)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

お	そ
お	ら
き	に
な	
	か
に	か
じ	る

幼 年

ふ	あ
っ	さ
て	か
い	ら
ま	
す	雨
	が

小学一年

か	お
げ	日
に	さ
か	ま
く	が
れ	雲
た	の

小学二年

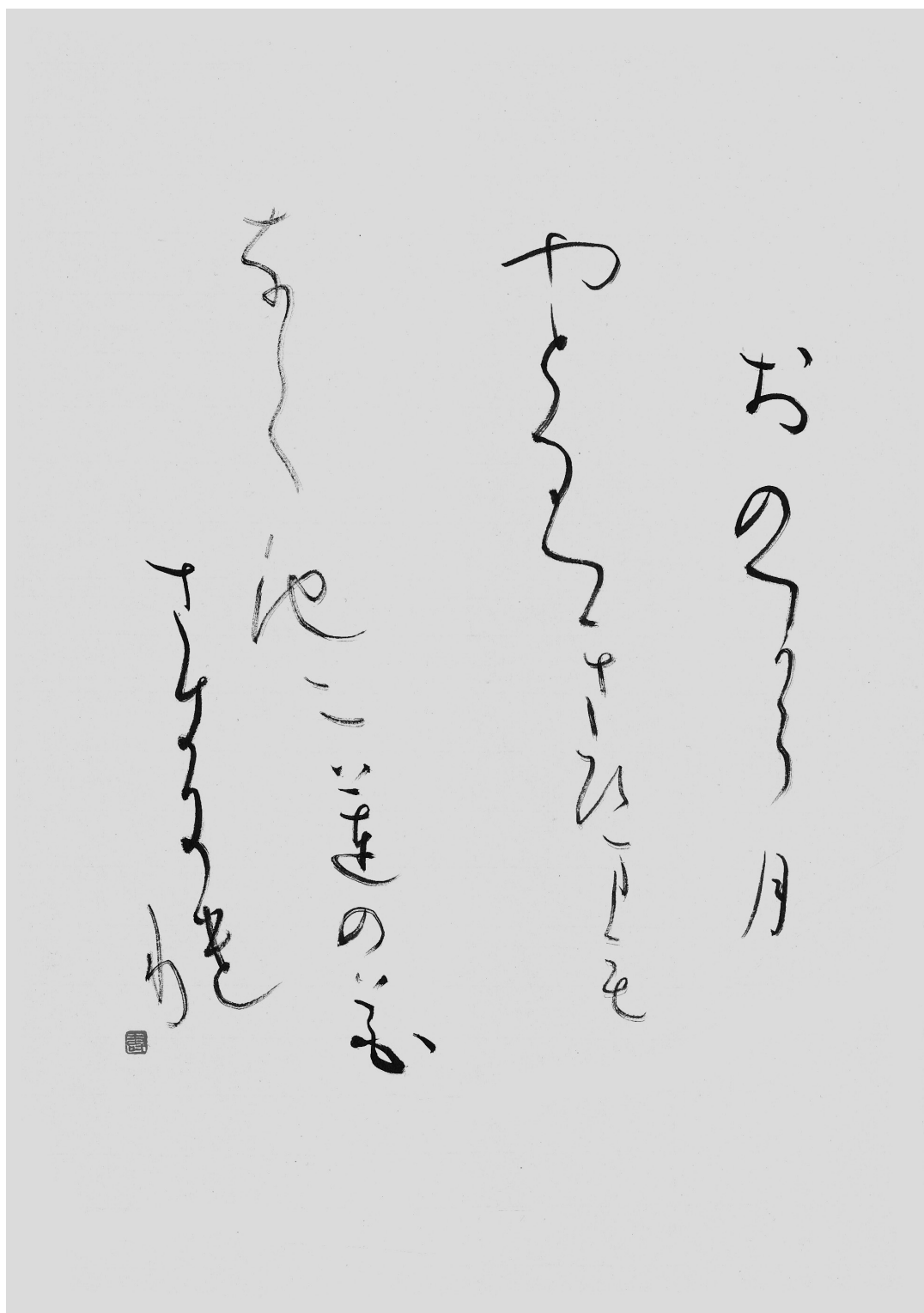
大	こ
昔	の
は	あ
海	た
だ	り
っ	は
た	

小学三年

街	ほ
灯	と
が	ん
つ	ど
い	の
て	通
い	り
る	に

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



岩本景楓先生書

おのづから 月やどるべき ひまもなく 池に蓮の 花さきにけり
可 万毛 二 (西行法師)